

令和 5 年度

授業シラバス・年間指導計画

芸術（3年）

教科名	科目名(校内科目名)	単位数	科	履修年次
芸術	美術 II	2	普通	3
履修形態	授業形態		指導者名	
選択	一斉授業		芸術科	

教科書(発行所)	高校美術2(日本文教出版)
教科書以外の教材	なし

目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
学習のねらい	<p>1 絵画表現・鑑賞 美術Iで学んだ絵画表現の基本をもとに、より楽しく発展的に制作できるようにするために、1年をかけてF30号(またはB1パネル)の制作をさせる。年度末の展覧会での発表を目標に、粘り強く制作する態度を見につけさせる。</p> <p>2 素描初步 表現・鑑賞 素描の基礎的知識・技術を身につける。卓上静物や石膏を鉛筆で描写し、形態の正確な把握力、素材・質感の表現力、空間に対する意識を養う。 木炭、鉛筆の使い方、構図の取り方など、素描の初步から始めるために、最初は出来上がった作品を模倣し、やがて独力でモチーフを組み描写できるようになることを目指す。基礎が身についた生徒から、次の基礎の段階へ進ませる。</p> <p>3 素描基礎 表現・鑑賞 素描初步からさらに発展させ、基礎的な力を定着させる。石膏デッサンを中心に、立体の描写力を身につける。一定時間内に作品を完成させることができるようにする。 美術系大学進学希望者は、石膏デッサンを中心として制作する。大学受験のための素描力を身につけるための基礎を養う。鉛筆、木炭以外の画材を使った素描も体験することで、絵画・彫刻・デザインといった専攻の適応力をはかる。</p>
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 絵画、素描のどちらを選択するかについては進学先を含めた本人の意思で決定する。絵画は関心・意欲・態度に評価の重点を置き、素描は表現の技能に重みを持たせる。素描初步と基礎では、初步の段階が充分に習得できた段階で発展させるため、評価にも若干段階をつける。
先生からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・美術IIでは、常に目的意識を持って授業にのぞむことが大切です。美術に興味を持って、描くことの楽しさを味わいたいという人は絵画表現・鑑賞を、美術系の学校に進学したいと希望する人は素描を選択してください。 ・素描の中では習熟度別に初步と基礎に分かれています。初歩から基礎に進むためには、授業で出された課題を提出し、作品の枚数を重ねることが必要です。意欲と熱意を持って制作にのぞみましょう。 ・自分の目的に応じて絵画と素描を選択できますが、授業を受けてみて進学の意志に変更があったときには、すぐに先生に相談しましょう。

年間授業計画表				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	1 絵画表現 ・学校周辺の風景から、自然と生活感のある場所を探す。 ・写真をもとにF30号(またはB1パネル)に鉛筆でデッサンし、画面を大きくしめるところから着彩していく。	45	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、自然あふれる美しい風景を気にとめる心を大切にし、描きたいという気持ちを持とう。 ・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。
	5	2 素描初步 表現 ・生徒が本来持っている描写力をはかるため、前期期間をかけて石膏像を鉛筆でデッサンする。 ・素描の難しさと大切さを知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が持っている描写の力量を知り、よいデッサンができるためには、優れた觀察力と集中力、粘り強さが必要なことを知ろう。
	6	3 素描基礎 表現 ・石膏像を5枚デッサンする。構図の取り方、形態の正確な把握、鉛筆のトーンの変化による立体感の表現方法を学ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ・石膏デッサンの基礎的な技法を学び、経験を積もう。立体把握に必要な要素を理解し、枚数を重ねることにひとつひとつ問題点を解決していく力を養おう。
	7	10	45	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間内に、準備と片付けを手際よく進め、少しでも多く制作できるようになろう。 ・失敗をおそれず、混色を楽しみながら大胆に色を乗せることができるようになろう。 ・日頃生活の中で見慣れている生活用品でも、描写しようとするとなかなかうまくいかないものを見つめる觀察力を磨き、形態や質感に興味を持とう。 ・できるだけ作品の枚数を重ね、経験を積むことでデッサンに対する姿勢を身につけよう。 ・鉛筆の使い方に慣れ、鉛筆の種類によるトーンの変化が使い分けられるようになろう。
	11	2 素描初步 表現 ・前期の経験をもとに、卓上にモチーフを構成して鉛筆でデッサンする。 ・完成した作品例を見ながら、最初は模倣から始め、構図の取り方や鉛筆によるトーンの付け方を学ぶ。 ・出来るだけたくさんの作品を完成させ、作品例を見ずに自分で描写できるようになる。		<ul style="list-style-type: none"> ・石膏デッサンで学んだ立体表現の基礎をからさらに発展させて、様々な素材で構成された静物モチーフをデッサンすることで、絵画表現に必要な空間に対する意識を養おう。 ・描画材料を木炭に変えることで、表現方法に幅を持たせながらも、基本的には立体の把握の仕方に違いのないことを知ろう。
	12	3 素描基礎 表現 ・前期に学んだ石膏デッサンの基礎をもとに、様々な形態や質感を持つ静物モチーフを、鉛筆で描写する。 ・木炭を使った石膏デッサンをすることで、木炭独特のトーンの変化や立体把握の方法を学び、技法の幅を広げることで素描の基礎を固める。 ・どんなモチーフにも躊躇せず描写する意欲をはぐくむ。		
	1	1 絵画表現 ・作品の持っている雰囲気を大切にして、細部描写をすすめ、完成させる。 鑑賞 作品を展示し、お互いの作品について批評する。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を客観的にながめて、よりよい作品に仕上がるため最後まで工夫する姿勢で制作しよう。 ・大作を仕上げた喜びとともに、友達の作品を鑑賞することで、芸術創作活動の喜びを体験しよう。
	2	2 素描初步 表現・鑑賞 ・自分の素描の技術を確認し、デッサンの初步的な考え方や姿勢に間違いがないかを考えて制作を進めるとともに、友達の作品を批評しあう。		<ul style="list-style-type: none"> ・素描表現の奥深さを知り、さらに技術的に上達できるよう努力する気持ちを大切にしよう。 ・友達の作品の優れたところから学ぶ気持ちを持とう。
	3	3 素描基礎 表現・鑑賞 ・鉛筆と木炭の画材の特性を十分理解し、それぞれにあったトーンの美しさが作品に表現することができる。 ・作品を展示し、批評しあう。		<ul style="list-style-type: none"> ・素描基礎で学んだ技術をもとに、さらに一步でも上達できるように努力を重ね、制作を続けていく。 ・3年生での素描IIIの授業につながるように、優れた作品を鑑賞し、完成を養おう。
総時間数			117	

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	科	履修年次
芸術	美術 III	2	普通	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	芸術科		

教科書 (発行所)	高校美術3 (日本文教出版)
教科書以外の教材	なし

目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
学習のねらい	<p>1 素描・鑑賞 素描の形態の正確な把握力、素材・質感の表現力、空間に対する意識、構成力を養い、応用力を身につける。 各大学の入試に合わせたモチーフと描画材を選択して制作に取り組ませる。</p> <p>2 絵画制作 総合型・推薦入試に必要とされる持参作品を分野別に制作させる。</p> <p>3 鑑賞 総合型・推薦入試の面接、小論文に向けて作家研究、歴史研究等の対策をする。</p>
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 絵画、素描のどちらを選択するかについては進学先を含めた本人の意思で決定する。絵画は関心・意欲・態度に評価の重点を置き、素描は表現の技能に重みを持たせる。 <p>素描初步と基礎では、初步の段階が充分に習得できた段階で発展させるため、評価にも若干段階をつける。</p>
先生からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を持って授業にのぞむことが大切です。受験対策を楽しむ気持ちで取り組むのがよいと思います ・受験対策であっても自己表現として自由な精神を持って、造形の魅力や芸術的価値を追究してもらいたいと思います。

年間授業計画表				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	1 素描初步 表現 ・生徒が本来持っている描写力をはかるため、1学期間をかけて石膏像を鉛筆でデッサンする。 ・素描の難しさと大切なことを知る。	2 6	・自分が持っている描写の力量を知り、よいデッサンができるためには、優れた観察力と集中力、粘り強さが必要なことを知ろう。
	5	2 絵画表現 ・学校周辺の風景から、自然と生活感のある場所を探し写真撮影する。 ・F50号のキャンバスに木炭でデッサンし、画面を大きくしめるとところから着彩していく。		・日頃から、日常の光景を気にとめる心を大切にし、描きたいという気持ちを持つ。
	6	3 素描基礎 表現 ・石膏像を3枚デッサンする。構図の取り方、形態の正確な把握、鉛筆のトーンの変化による立体感の表現方法を学ぶ。		・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。
	7			・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。
	9	1 絵画表現 ・F50号油彩の制作を継続する。全体のバランスを考えて着彩し、躍動感のあるダイナミックな表現を楽しむことができる。		・石膏デッサンの基礎的な技法を学び、経験を積もう。立体把握に必要な要素を理解し、枚数を重ねるごとにひとつひとつ問題点を解決していく力を養おう。
	10	2 素描初步 表現 ・1学期の経験をもとに、卓上にモチーフを構成して鉛筆でデッサンする。 ・完成した作品例を見ながら、最初は模倣から始め、構図の取り方や鉛筆によるトーンの付け方を学ぶ。 ・出来るだけたくさんの作品を完成させ、作品例を見ずに自分で描写できるようになる。		・限られた時間内に、準備と片付けを手際よく進め、少しでも多く制作できるようになろう。
	11	3 素描基礎 表現 ・1学期に学んだ石膏デッサンの基礎をもとに、様々な形態や質感を持つ静物モチーフを、鉛筆で描写する。 ・木炭を使った石膏デッサンすることで、木炭独特のトーンの変化や立体把握の方法を学び、技法の幅を広げることで素描の基礎を固める。 ・どんなモチーフにも應じて描写する意欲をはぐくむ。		・失敗をおそれず、混色を楽しみながら大胆に色を乗せることができるようになろう。
2	12		2 6	・日頃生活の中で見慣れている生活用品でも、描写しようとするとなかなかうまくいかない。ものを見つめる観察力を磨き、形態や質感に興味を持つ。
	1	1 絵画表現 ・作品の持っている雰囲気を大切にして、細部描写をすすめ、完成させる。 鑑賞 作品を展示し、お互いの作品について批評する。		・できるだけ作品の枚数を重ね、経験を積むことでデッサンに対する姿勢を身につけよう。
	2	2 素描初步 表現・鑑賞 ・自分の素描の技術を確認し、デッサンの初步的な考え方や姿勢に間違いがないかを考えて制作を進めるとともに、友達の作品を批評しあう。		・鉛筆の使い方に慣れ、鉛筆の種類によるトーンの変化が使い分けられるようになろう。
3	3	3 素描基礎 表現・鑑賞 ・鉛筆と木炭の画材の特性を十分理解し、それぞれにあったトーンの美しさが作品に表現することができる。 ・作品を展示し、批評しあう。	1 8	・石膏デッサンで学んだ立体表現の基礎をさらに発展させて、様々な素材で構成された静物モチーフをデッサンすることで、絵画表現に必要な空間に対する意識を養おう。
	4			・描画材料を木炭に変えることで、表現方法に幅を持たせながらも、基本的には立体の把握の仕方に違いのないことを知ろう。
	5			
総時間数			70	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
美術	素描	2	普通	3
履修形態	授業形態		指導者名	
選択	一斉授業		芸術科	

教科書（発行所）	高校美術3（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
学習のねらい	<p>1 絵画表現・石膏素描基礎 石膏像を鉛筆や木炭で限られた時間内で完成させる技術を養う。どんな石膏像でもあらゆる角度、光の条件の下で、正確な形の描写と空間表現が可能にする力を身につける。 習熟度に応じて題材を設定し、着実な技術力の向上をめざす。</p> <p>2 絵画表現・静物素描基礎 様々なモチーフを、限られた時間の中でデッサンする力を身につける。B3版の画用紙やケント紙、木炭紙など、あらゆる紙に対応できる技術力と描写力を養成する。 また自分で描きたいテーマを決めてモチーフを設定し、自分の個性に応じた水準の高い作品を完成させることができる。</p> <p>3 絵画表現・構成素描 モチーフを自分で自由に設定し、与えられたテーマを組み合わせて想定デッサンできる応用力を養う。進学に対応できる高度な技術力を身につける。 自画像をモチーフに、表現したいテーマに沿って他のモチーフと構成し、表現力の高い自画像の大作を制作する。表現したいテーマがはっきりと画面で主張できるように、作者の内面性を追求した密度の高い作品に仕上げる。</p>
評価の観点	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。
評価の方法	○ 自分の技術のレベルにあわせてテーマを設定し、完成された作品を基に次の課題を設定していく。進学に対応できる技術力を養うことを第一の目的とし、作品とともに取り組みの姿勢について観点評価に加える。

先生からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・素描は、美術系大学への進学を目的とし、高い技術力を養うための講座です。これまでの技術力をベースに向上心を持って取り組みましょう。 ・それぞれの習熟度に応じてテーマを設定します。一つ一つの制作を大切にし、批評された言葉を次の制作に生かす気持ちが大切です。 ・絵画やデザイン、彫刻などの選考に応じてテーマを設定し、受験に対応します。
------------	---

年間授業計画表				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	1 絵画表現・石膏素描基礎 石膏像を鉛筆でデッサンする。用具の使用方法を理解し、初步的な考え方と技法を学ぶ。基本となる造形要素を理解し、表現方法を学ぶ。	18	絵画表現においてデッサンの重要性に気付き、観察力や集中力、粘り強さが必要であることを知る。デッサンの基礎を固めたうえで、鉛筆や木炭のトーンの違いによる立体表現を学び、その奥深さを知る
	5			
	6	2 絵画表現・静物素描基礎 鉛筆で卓上にあるモチーフをデッサンする。形・質感・色などの特徴を正確に捉え表現する。幾何形体を遠近法を用いて表現する方法を学ぶ。	21	視覚的な情報をできるだけ正確に伝達するためのデッサンの必要性を知りそのための初步的な考え方と、試行錯誤しながら鉛筆でトーンをつける技術を学ぶ。
	7	鉛筆で静物モチーフをデッサンする。遠近法を用いた形体の捉え方を学び、それぞれの特徴を正確に表現する。木炭によるデッサンも試みる。		二点透視方の考え方や消失点の意識を持つことで、画面における空間の感覚を身につけ、デッサンにおける立体表現に遠近法がいかに重要であるかを知る。
	8			
	9			
	10	1 絵画表現・構成素描 鉛筆による構成デッサン（手と自由モチーフ） 木炭紙大が用紙に、自分のイメージに合わせて手の描写と自由なモチーフを想定して構成しデッサンする。	12	手の写実的なデッサンをもとに、構図やその他のモチーフとの組み合わせを工夫することで、自分のイメージの中の世界を表現することができる。
	11			
	12	これまでに学んできた素描の基本的な考え方を整理し、自分の習熟度に会わせて様々なモチーフに挑戦して描く。	12	鉛筆素描の楽しさを知り、どんな題材でも表現できる技術を身につける。
	1	鉛筆と木炭の画材の特性を十分に理解し、それそれにあったトーンの美しさを作品で表現することができる。木炭紙大の素描が限られた時間内で完成できるようにする。	15	3年間の素描の集大成としての知識と自分の技量を發揮し、完成度の高いデッサンができるようになる。またさらに上達するために何が必要かを自分で考え、工夫していく力を身につける。
総時間数			78	

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	科	履修年次
芸術	音 楽 II	2	普通	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	芸術科		

教科書 (発行所)	MOUSA 2 (教育芸術社)
教科書以外の教材	なし

目 標	音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
学習のねらい	<p>1 歌唱 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現をする。 基本的な発声法を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。 様々な国や地域の歌に親しむ。</p> <p>2 器楽 いろいろな楽器を体験し、視奏力を伸ばすとともに、曲の構成及び曲想の把握と奏法や表現の工夫を図る。 様々な楽器の基本奏法を習得し、その特長や音色の美しさを感じ取る。 視奏でスコアリーディングの力をつける。</p> <p>3 創作 いろいろな音階による旋律の創作や、旋律に対する和音の工夫、いろいろな音素材による即興的表現の体験をする。楽譜に対する基礎知識を充実させる。</p> <p>4 鑑賞 さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲を成立させた歴史的背景を学ぶ。 我が国の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽の種類と特徴について理解する。</p>
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。

先生からの アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に対する興味や関心を日頃からもち、意欲的に表現しようとすることが大切です。 ・様々な音楽に積極的にふれることで今まで未知であった音楽に対する発見があり、嗜好する音楽の視野を広げるきっかけができます。どんな分野の音楽も積極的に取り組みましょう。 ・作品として形に残らないものですが、だからこそ発表までの過程が大切であり、それを発表することで自信や集中力を身に付けて欲しいと思います。 ・自分の進路を見据えてしっかりと音楽の知識を深める努力をしてください。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。 音楽をより深く知るために、高度な音楽理論を身につけましょう。
----------------	--

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	科	履修年次
音楽	ソルフェージュ	2	普通	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	芸術科		

教科書 (発行所)	なし
教科書以外の教材	なし

目 標	音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。
学習のねらい	<p>1 視唱 豊かな響きで歌う。 正しい音程、正確なリズムで歌う。 初見視唱に取り組み、読譜力を高める。</p> <p>2 視奏 各楽器にふさわしい奏法で演奏する。 正しい音程、正確なリズムで演奏する。 初見視奏に取り組み、読譜力を高める。</p> <p>3 聴音 様々な調性の単旋律聴音、複旋律聴音、和音聴音に取り組み、正しく音を聞き取る力や記譜力を高める。</p>
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からの アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路を見据えてしっかりと音楽の知識を深めることで、音楽の楽しみは更に深まります。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。 音楽をより深く知るために、高度な音楽理論を身につけましょう。